

# 〈みん・みん会員だより〉NO. 32 (2020. 12. 28)

## ～お知らせ～

2021年1月9日(土)午後1時30分から名古屋市北区にある大曾根住宅1階の「ソーネ・おおぞね」で行う予定の総会&木曾川上下流交流・連携の集いを春に延期します。コロナウイルスやインフルエンザの状況で、文書による「総会」も視野に入れて考えていきます。よろしくお願ひします。(みん・みんの会事務局)

## 今年もお世話になりました。2021年もよろしくお願ひします！

皆さん、2020年をどのように過ごされてきましたか。今年はコロナウイルス感染症の影響で、多くの木曾川上下流交流のイベント・催しが中止になりました。みん・みんの会が計画していた「ツアー」や集いも延期や中止を余儀なくされました。

みん・みんの会は“森は水の源、水は命の源、川は命のつながり”をモットーに、上流の山間地で暮らしながら森を守り、「水」を支えている人びとに感謝し、まなざしを向ける会として、「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する」を合言葉に、木曾川流域(木曾川、飛騨川、愛知用水)の上下流交流・連携を目的にして、今日まで活動してきました。

私たちは、日常の生活水や農業、工業用水として、木曾川の水の恩恵を受けています。「川は、生命(いのち)のつながり」です。

「美味しい水が当たり前」として、日常生活を送っている私たち。「当たり前」にしている人びとの営みがあります。森を育て守っている人、農業や林業で暮らしている人、水道事業の人たち、伝統文化・ものづくりを培っている人びと…、多様な人びとによって美味しい木曾川の水はつながっています。

地球上に暮らしているすべての人びとが、安全な水の恩恵を受けていません。9億人以上の人びとが「安全な水」の暮らしになっていません。気候変動、温暖化によって「水」は大きな影響を受け、渇水や洪水をもたらしています。農作物にも大きな被害を与えてきています。

今回の「会員だより」3頁に、名古屋在住でペシヤワール会の五井さんから「アフガニスタンで40年近くにわたって、医療・農業・灌漑事業に取り組んできた中村哲医師」の文書を寄せていただきました。

サンダル工房から病院作り、そして井戸掘りや用水路建設をいつも地元の人びとと一緒に取り組み、歩んできた中村さんの生き方、思想を私たちも学んでいきたいと思っています。「コロナ禍」の中で、「つながり」「関係づくり」「共感」「歴史」などについて、問いながら進んでいきます。(かわさき)

## 上松町の「KINOTOCO」に行ってきました！

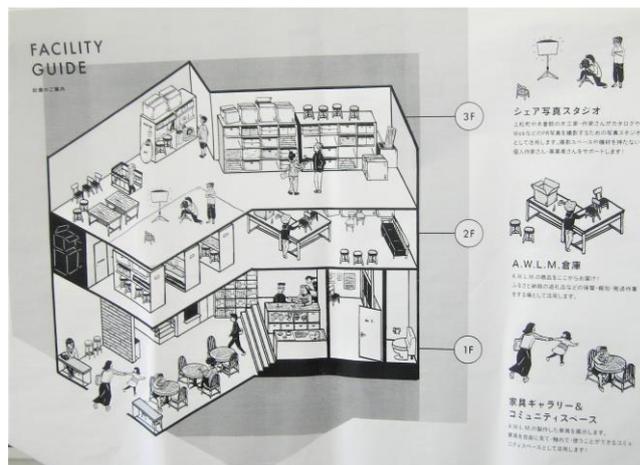
2020年12月5日(土) 昼ごろに上松町の駅前付近にある「KINOTOCO」へ到着。そして、地域おこし協力隊の小林さんと木曾川沿いの工房・作業場で会い、そこでお話を聞きました。

作品・木工づくりの拠点としての工房には、木工の道具や機械が揃っており、ヒノキの匂いが充満していました。小林さんによるとヒノキの椅子作りで大変忙しいとのことでした。

上松町地域おこし協力隊は6人います。そして、上松には全国から40人が木工を学ぶ長野県立の上松

技術専門校（1年間）があります。この若者たちが上松で暮らしており、暮らしていける基盤を作っていけたら、木工のまち・上松を創り出しながら活性化していく取り組みが着々と進んでいるように感じました。このプランに上松町の協力し、作られてきたのが工房・作業場（写真左）であり、拠点としての「KINOTOCO」です。小林さんは、みんなの会『会員だよりNo. 31号』で「上松町地域おこし協力隊では、「木工の東大」とも呼ばれる上松技術専門校を修了した若者が、町に残って木工を生業として働く場所づくり、仕組みづくりを通して地域活性化のための活動をしています。…」と述べています。

小林さんは「上松町のまちおこしとして木工環境を整えていく、アップグレードしていく」と語ってくれました。



「KINOTOCO」は3階建て。「1階は地域おこし協力隊の拠点であり、製作した家具、木工品のギャラリー&コミュニティスペース、2階はふるさと納税返礼品として協力隊が作った木工品の商品在庫倉庫、そして3階はシェアフォトスタジオで、協力隊や上松町の木工家、木曾地域の作家がPRのための商品写真を撮影できる撮影ブースになっている」と小林さんから聞きながら、“希望”の芽が膨らんでいることを実感しました。今後どのように変化し、魅力が発信されて、若い人たちの“新生事物”になっていくのか、楽しみです。ぜひ、一緒に木曾川の上流下流地域の交流イベントを開催したいと思います！（かわさき）

☆「KINOTOCO」☆ 住所：〒399-5603 長野県木曾郡上松町駅前通り3-25  
mail : agematsu.wlm.info@gmail.com

## 「木曾ひのきからアロマオイルを取り出す」ワークショップ開催

11月21(土)、22日(日)の両日、名古屋市科学館にて「木曾ひのきからアロマオイルを取り出し



てみよう！」「ひのきのボンボンづくり」のワークショップ（写真）が開催されました。

主催は木曾広域連合と名古屋市科学館、協力はひのき精香株式会社、AGEMATU WOOD LIFE MAKING（上松町地域おこし協力隊）、みんなの会で取り組みを行いました。

昨年より参加者を半分にして「密」を避け、感染症対策を取りながらの取り組みとなりました。参加者は小学校3年生から6年生とその保護者で3回の開催で各8組の募集に2～3倍の応募があったそうです。

はじめに木曾広域連合地域振興課から木曾川

の上流域と下流域のつながり、江戸時代の尾張藩のころからの歴史に触れながら森が大きなダム  
の役割を持っていること、森を守ることが下流域  
のおいしい水と環境を作り出していること、その  
ために間伐が必要でその活用も大切であること、  
そして今も木曾川の水がおいしい水で下流域を  
潤し、農工業など多くの産業の発展に大きく貢献  
していることが話されました。

アロマオイルの抽出は各実験テーブルで、ひの  
きのチップを水と一緒に枝付きフラスコに入れ  
てガスバーナーで煮沸し、出てきた蒸気を氷水で  
冷やした試験管に導いて抽出液を取り出すとい  
うものです。この実験で、部屋中がひのきオイル  
の香りに包まれました。

昨年で開催した時と同様、子どもたちだけでな  
く大人も実験にワクワク、ひのきの香りにおおい  
に盛り上がりました。

続いて、ひのきのカンナくずでのボンボンづく  
りでは薄いカンナくずをさらに繊維に沿って細  
かく裂いてきれいなボンボンを思い思いの形に  
仕上げていきました。クリスマスの飾りに合うよ  
うに難しいリボンの結び方も楽しく教えてもら  
いながらきれいに作ることができました。

今回の取り組みは、昨年が続いて2回目です。  
継続して取り組んでいけたら子どもたちや 30～  
40代の方たちに木曾川上下流交流・連携の大切さ  
を考える機会として有意義な取り組みになると  
思います。(近藤)



## 中村哲医師を偲ぶ …「アフガンを緑の大地に」

五井泰弘（ペシャワール会名古屋会長、みんなの会会員）

アフガニスタン復興へ 36年に亘り医療・農業・灌漑事業に取り組んできた中村哲医師が亡くなられて1  
年が過ぎました。

2019年12月4日アフガン東部ジャララバード市内で武装勢力の襲撃を受け、スタッフ1名、護衛4名と  
中村さんが帰らぬ人となりました。私は突然の連絡に驚きと大変な衝撃を受けたのを昨日のように覚えて  
います。痛恨の極みで惜しんでも惜しみきれない人を失ったのです。2020年1月福岡の葬儀には全国から

5千名余の方が参列、同年2月名古屋の送る会にも700名の方が中村さんの死を悲しみ、その偉業を称える声を数々受けました。本当に偉大な方でした。志半ばでの「事業は継続し、中村先生の希望は全て引き継ぐ」と決意をしました。とは言え「アフガンを緑の大地に」という壮大な発想と一つのボランティア団体が手掛けるなど想像絶後の事業計画に驚きました。中村さんでなければ出来ないし、中村さんだからこそ出来た事業です。この先、不安と荷の重さを感じたものですが、中村さんという「不屈の精神」で前進する覚悟です。幸いに現地はジア副院長（PMS・平和医療事業団）はじめ100名のスタッフがおり、中村先生のもとで育った人達ばかりです。一時中断していた事業は3月頃から再開、現場に戻ったスタッフの士気は高く、以前に戻りつつあります。

医療事業では診療所の活動は多忙を極め、遠隔地からの患者が増えています。また新型コロナ感染も都市部で広がっていますが、診療体制は大事に至っていません。農業事業はガンベリー沙漠に120万本の植樹で緑に、小麦やオレンジなど果物、酪農、養蜂なども広がっています。灌漑事業は今、進めているマリワリード堰Ⅱなど幾つかの用水路・排水路が完成しつつある、一方で最初に手掛けたマリワリードⅠ用水路は鉄砲水と土石流の洪水被害に見舞われ、修復工事に追われているところです。

治安は悪化の一途、コロナウイルス感染拡大と悪い状況ですが、ガンベリーに「ドクターサーブナカムラ」の巨大な記念塔が完成し、又、クナール河流域に緑が広がり難民が戻ってきて平和な光景が見られると、現地から嬉しいニュースも届いています。

最後に、私が現地で用水路作業の時、中村さんは荒れる河を見て「自然とは逆らわない、折り合いをつけていくもの」と自然の大切さを説いていました。みんなの会の共通性を感じています。

## <ご支援・お力添えをお願いします>

長野県木祖村で、私たちは笹川さんから畑（写真）を借りて大豆作り。笹川さんには10年にわ



たって大変お世話になってきました。笹川さんは、私たちに行きつけの場を作ってくれました。ご夫妻を応援するために高原荘「宿泊券」を取り組

みます。

☆1泊2食付 大人1人 1万円（税込み）

\*お楽しみおみやげ付き \*別途冬季暖房費

小学生以下1人 8千円（税込み）

☆「宿泊券」の有効期間 2022年3月31日まで。

宿泊券1枚につき1人有効

☆申込み：水源の里を守ろう 木曾川流域みんなの会 担当 近藤（TEL 090-4150-6156）

FAX：052-741-2588

MAIL：suigennosato@gmail.com

「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する」を合言葉に“人が動き、モノが動き、ココロが動いて”関係が積み重なっていく木曾川上下流交流・連携を取り組んでいきます。ご支援・お力添えをお願いします。

## 水源の里を守ろう 木曾川流域みんなの会

連絡先：〒464-0075 名古屋市中種区内山3-7-11 斎藤事務所気付

TEL 052-745-1001 FAX 052-741-2588 mail：suigennosato@gmail.com